

推進校別事業実績報告書

<取組と成果のポイント>

- ・読み物資料を使った道徳授業が実施されるようになり、道徳授業が確実に行われるようになった。
- ・道徳の授業を体験活動と意図的につなげることで、生徒が更にボランティア活動に積極的に取り組むようになった。
- ・家庭や地域と連携した教育活動を意図的に組むことで、共に生きる活動を推進することができた。

1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数	備考
愛知県碧南市立中央中学校	愛知県碧南市植出町5丁目2番地	0566(42)3223	309人	

2 研究課題

- ・学校・家庭・地域が連携を図り、共に生きる心をもった豊かな人間性や社会性を培い、自己有用感をはぐくむ道徳教育の充実
- ・地域人材の活用及び資料の開発とその効果的な活用による道徳教育の充実

3 研究主題とその設定理由

自己有用感をはぐくみ、共に生きる心を育てる道徳教育の充実
— 地域を生かした魅力ある指導のあり方を求めて —

本校は、碧南市の中心部に位置し、本年度で開校27年目を迎える。現在では、住宅地と商店街、市庁舎などが建てられ、経済・文化の中心地として栄えている。本校が存在する中央地区には、碧南高校と中央小学校と本校があり、5つの行政区から成り立っている。保護者は、碧南市出身の方ばかりでなく、全国の様々な地方から碧南に住まいを構えている人が増えてきている。したがって、中央地区の活動はお互いを知り、意志の疎通を図る上でも重要であり、地域を支える次世代の人々を育成していくためにも、共に生きる心をはぐくむことで中学生を地域の中で育てていくことは大変重要である。

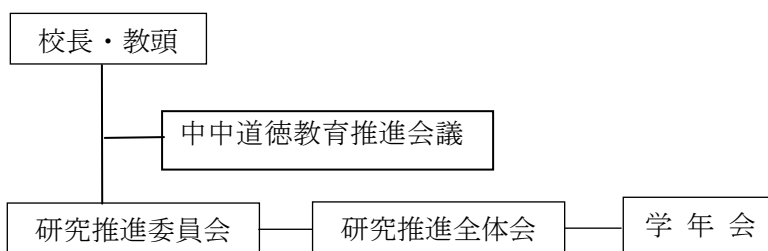
そこで、中学生を地域の中で育てていくためにも、ボランティア活動に興味・関心をもたせ、地域に愛着をもつ心の育成の取組が必要不可欠である。人と人のかかわりの希薄さから他者への思いやりの心や共感する力が育ちにくいこと、自分自身に対しても肯定感や有用感がもてず「共に生きる」を実感できないこと等の現状がある。その改善のために、生徒が家庭や地域の身近で心を揺さぶる体験を行ったり、魅力ある道徳の授業等を通して、人と人のかかわりの中で自己有用感をはぐくむことができれば、他者への思いやりの心や共感する力が育ち、自分自身に対しても肯定感や有用感がもつことができると考え、「共に生きる」心をもった生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

4 研究の概要

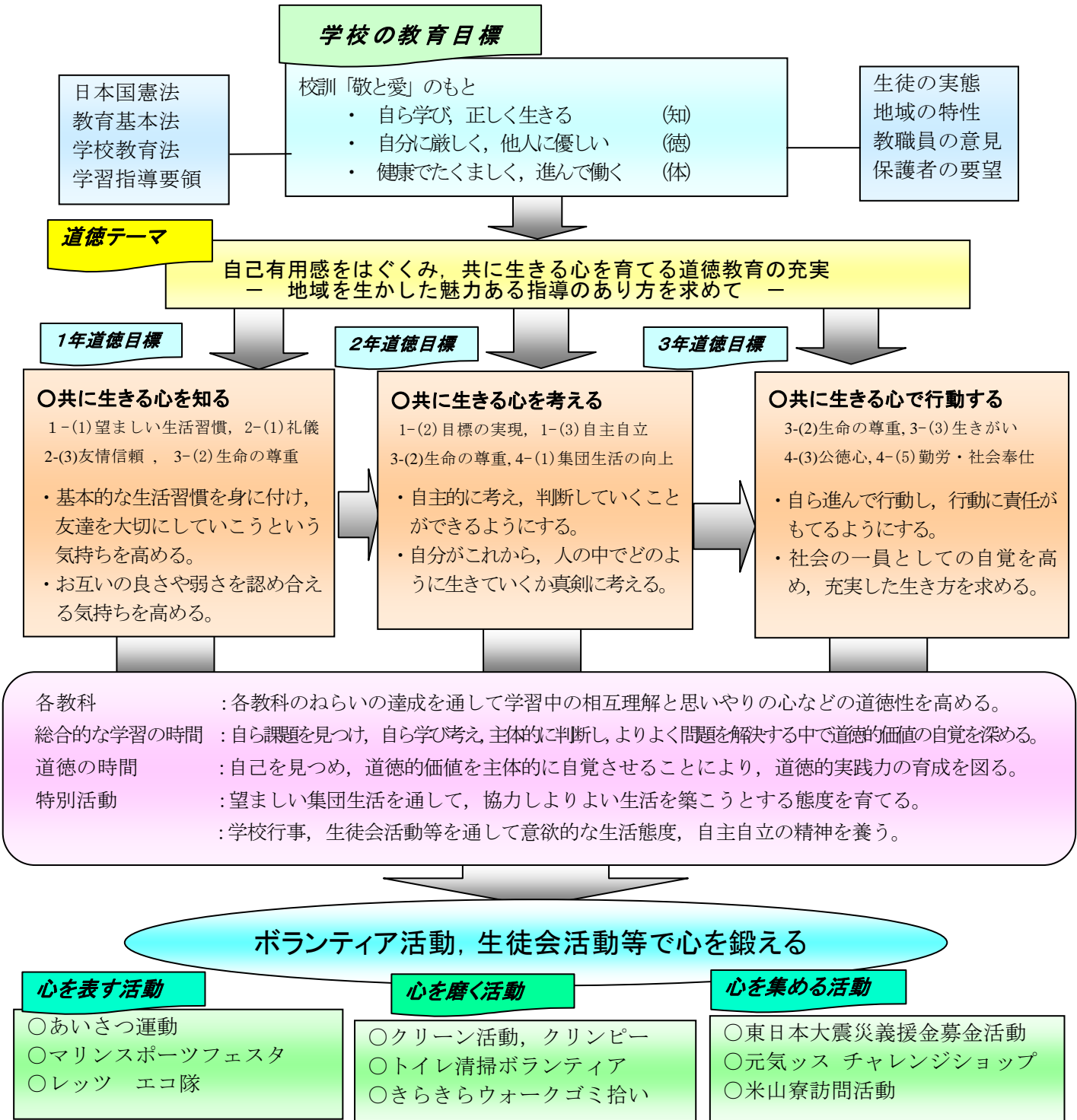
(1) 研究仮説

- ・地域とのかかわりをもった体験活動を道徳の授業に効果的に結びつけることができれば、地域の人々を含めた他者とのふれあいを深め、自己肯定感や自己有用感をもち、共に活動しようとする意欲をもつことができるであろう。
- ・自分の生き方を振り返ったり、将来のあり方を考える場をもつことで、共に生きることを考え、自分の生き方をより深く考えることができるであろう。

(2) 研究組織



(3) 研究構想



5 研究計画

- 1 学期：全体計画，組織づくり及び講師を招聘して，道徳の授業づくりの実践
- 2 学期：道徳の授業実践，道徳教育講演会及び地域体験活動の実施
- 3 学期：研究のまとめ及び成果を地域へ発信

6 これまでの取組と成果

(1) 全校道徳の時間を設定し，読み物資料を使った道徳の授業の実施

- ア 授業展開と資料は，「明るい人生」を基本とする。
- 「明るい人生」より，価値のある資料を効果的に使用する。
 - 学年ごとに，同じ資料を使って授業を行う。
 - 基本発問と中心発問を考える。

イ 全校道徳の授業は、毎週木曜日の4時間目に設定し実施する。

ウ 木曜日の4時間目を全校道徳の時間とし、読み物資料を使った道徳授業の実施の成果

(ア) 若い教師が道徳の授業を行う力を確実に身に付けることができた。

(イ) 学年内で資料について話し合うことができ、学年の生徒の実態を捉え、学校行事等生徒の活動に効果的に道徳の授業を位置付けることができた。

(ウ) 資料「明るい人生」の使い方について、意見交流ができた。

(2) 「公共心」に焦点を当てた資料で全校道徳授業の実施

ア 「公共心」道徳授業づくり

(ア) 全校で同じ資料を使って授業を行う。

(イ) 社会連帯や公德心について考える。

(ウ) 柴田八重子先生による授業研究の指導

柴田先生に模擬授業を行っていただいた。研修を受ける教員が生徒になって授業を受ける。柴田先生の授業は読み物資料を範読するのではなく、語りで行い、資料の把握を集中して行うことができる。

(第1回) ・模擬授業は教師が生徒役になり、「星への手紙」で行った。中心発問で答えたことをすぐ板書するのではなく、考えをみんなで整理しながら4つにまとめていくやり方を学んだ。

・「なるほど」「はっとした」「参考になった」を投げかけ、人の意見と関わりをもたせるようにするとよい。これは、他の教科でもかかわりをもたせたいときに使うことができる。

(第2回) ・資料を読み聞かせた後、本文に書いてあることについては聞く必要はない。できればカードを使い、キーワードを黒板に残すようにするとよい。指導過程の終末で、自分の生活や経験と結びつけて考えさせるようにしたい。(自己の生き方の自覚)

・模擬授業は2回目で、「ロレンゾの友達」を行った。授業のやり方が理解でき、活発な話し合いができた。

(第3回) ・指導案の中心発問の部分に25分くらい時間をかけるようにしたい。生徒に思っていることをどんどん出させ、教師と生徒が人生を語り合う授業を目指してほしい。

・道徳は国語とは違い、資料に書いてあることを発問する読み取りの授業になってはいけない。

・自分の「今」を語れる教師になること。子どもたちに自分の思いを伝えるようにするとよい。

・教師が生徒役になって、全校道徳「バスと赤ちゃん」の模擬授業を行った。また、指導案の導入、展開、まとめの部分の具体的な指導や助言をいただいた。

(第4回) ・今回は初めて「語り」で行った。生徒は内容をしっかりと理解することができていた。キーワードのカードや掲示物がしっかりと準備されていて、模擬授業で指導されたことが生きていた。

・中心発問に対する意見の中には本気で語るものが多く見られ、教師が予想していなかった意見も、きちんと受け止める余裕が見られた。若い教師が確実に力をつけていることが実感できた。

(第5回) ・今までは模擬授業の追試であったが、資料から基本発問、中心発問を何にするかを短い時間で考え、話し合うという研究会を行った。何処にポイントを置くのか、具体的にご指導いただいた。

・全員で基本発問、中心発問を決めた後、柴田先生に授業のシミュレーションをしていただいた。

・これまでの研究のまとめをご指導いただいた。また、最初はできなかった「語り」ができるようになってきて、生徒たちの集中力が高まってきたこと、生徒たちから出た意見を全体で関わらせながらまとめていくことが少しずつできるようになってきたとの評価をいただいた。

イ 「公共心」道徳授業実施(資料名：バスと赤ちゃん)

バスの中の乗客としての公德を考えながら、大泣きをする赤ちゃんを抱く若い母親をどう受け入れていくかを通して、よりよい(バスの中の)社会の実現をどうめざしていくかを考えることができる、中学生に公德心・社会連帯を感得させるのに効果的な資料である。

ウ 「公共心」道徳授業づくり及び授業実施の成果

(ア) 若い教師が自信をもって授業に取り組むことができるようになった。

(イ) 学年ごとに若干指導案が異なるものの、資料が同じことで意見交換がしやすく、発達段階を考慮しながら授業展開が行えるようになってきた。

(3) 道徳教育講演会の実施

ア 道徳教育講演会

(ア) 講演講師 安倍 昭恵 様

(イ) 演 題 「ミャンマーの学校づくりと私」

イ 道徳教育講演会生徒感想より

・ミャンマーの人々は日本と違ってたくさんのもので、そして、水や食料など自分たちが毎日当たり前のように使っているものが無いことを知ったときはもちろんびっくりしましたが、それに加えて心が豊かで人に優しいことを聞いて、自分が苦しいのに他人の気持ちを考えてあげられることに驚きました。私も他人を思いやり気を遣ってあげられる人間になりたいです。

4(6)家族愛,4(7)愛校心

・「私の幸せは？」と聞かれたら正直戸惑います。しかし、私は今大好きな家族や友達、先生方に囲まれて毎日笑顔で生きられていることが当たり前のように一番幸せだなと思いました。自分の将来は、まだ、なりたいことなど決まっていますが、たくさん「ありがとう」を言われる人になりたいと強く思っています。そして、ミャンマーの子どもたちのようにいつも笑顔できらきら輝いている人になりたいです。

2(6)感謝

ウ 道徳教育講演会の成果

- (ア) 保護者や地域の方とともに「共に生きる」を大きなテーマにした道徳教育講演会は、生徒が真剣に講演を聴き、人の生き方においてともに考えることのできる価値のある取組になった。
- (イ) 生徒の感想より、自己有用感の他とのかかわりにおいて自分を肯定的に捉え、人の役に立っていきたいという意欲がうかがえる。
- (ウ) 道徳的価値の中でも「2-(2)人間愛,思いやり」「2-(6)感謝」「4-(6)家族愛」などがあげられ、生徒の道徳的実践意欲が伝わってきた。

(4) 地域体験活動

ア 生徒の感想より

(ア) 元気ッスへきなん チャレンジショップボランティア活動から (心を集める活動)

私が今回チャレンジショップに挑戦してみようと思ったきっかけは、地域とのかかわりや、出店とはどういうものかを知りたかったからです。最初ただ売るだけだと思っていたけど、出店するには商品の準備や売るために宣伝するものが必要と知り、いろいろ細かい準備が大切なんだなと思いました。出店準備中や、商品の看板づくりなど大変だったけど、おもしろかったです。本番の日、暑い中みんな一生懸命で、お客さんもたくさん来てくれて、笑顔で渡すと必ず笑顔が返ってきてすごくうれしかったです。今回の出店で大変さやうれしさ、そして大切なのは笑顔だと知りました。

4(5)社会奉仕,勤労

2(2)人間愛,思いやり,4(5)社会奉仕

2(1)礼儀,2(2)人間愛,思いやり

(イ) Let's エコ隊の活動から (心を表わす活動)

エコ隊の活動をして感じたことは、生徒のみんながとても協力的だったことです。空き缶集めでは袋いっぱいを持ってきてくれて、クラスで競い合っているところもありました。ペットボトルキャップは、800個で1人分のワクチンと交換できるので、僕もこちらの方に力を入れました。僕たちが担当したときは約10人のワクチンを交換することができました。この活動は、私たちのためだけでなく、世界の子どものためにもなるので、さらによりよいものにしていってくださることを期待しています。

4(10)国際理解,人類愛

(ウ) きらきらウォークごみ拾いボランティア活動を行って (心を磨く活動)

4(5)社会奉仕,2(2)人間愛,思いやり

当日はとても寒かったにも関わらず、たくさんの中央中の生徒や保護者の方がごみ拾いボランティアに参加してくれて心の底からうれしかったです。私たち生徒会が大きな声で呼びかけていたら、参加してくれた人たちも一緒に呼びかけてくれて、みんなで協力して一つのことをやるのはとても楽しく、とても気持ちいいことなんだと感ずることができました。自由参加という形だったのにたくさんの人が参加してくれて、中央中の生徒や保護者のみなさん方は心の優しい人ばかりだと改めて知ることができました。

4(5)社会奉仕,2(2)人間愛,思いやり

4(7)愛校心

イ 生徒の感想より

「共に生きる」活動を通して、公德心・社会連帯を感得させるのにかかわる大切な道徳的価値は「2-(1)礼儀」「2-(2)人間愛,思いやり」「4-(5)社会奉仕」「4-(7)愛校心」「4-(10)人類愛」などがもたになることが生徒の体験活動からもうかがえる。従って、公共心を中心的に支える道徳的価値「4-(2)公德心,社会連帯」「4-(5)社会奉仕,公共心」は、特に道徳の授業において、すべての道徳的価値をバランスよく自覚させるものといえる。日ごろから体験活動を通して、道徳的判断力や道徳的実践意欲を培っておく必要がある。

ウ 地域体験活動の成果

- (ア) 「共に生きる」を大きなテーマにした地域の体験活動は、ボランティア活動として10年に及ぶ取組としても認められ、碧南市から市民憲章の実践者として表彰をされた。
- (イ) 地域の中で自分の活躍の姿を求めて積極的に取り組もうとする生徒が増えてきた。
- (ウ) 地域の人たちと直接かかわり合い、ふれ合うことで生徒は地域の皆さんに感謝する心や協力する大切さを実感することができた。

7 今後の課題

- ・ 道徳の授業に使用する読み物資料の効果的な活用方法の工夫
- ・ 意図的な道徳的実践の場の意識付けとそのあり方
- ・ 学校の教育活動と家庭や地域の連携のあり方